

2026 年度 酪農学研究科 修士課程 第 1 期入学試験問題  
(必修： 英語 )

【解答又は解答例】

I. 次の英文を読み、以下の問①～③に答えよ

① 下線部(1)を和訳せよ [20 点]

160 年以上前、修道士グレゴール・メンデルは、エンドウマメ (*Pisum sativum*) の種子やさやの形や色など 7 つの形質を丹念に研究し、遺伝の法則に関する画期的な研究を成し遂げた。

② 下線部(2)を和訳せよ [20 点]

いくつかのエンドウマメの品種は乾燥するとしわが寄り、生のまま食べると甘みがある。メンデルは、これらの種子が劣性の「しわ」の遺伝子を持っていることを示した。一方、優性の「丸い」遺伝子を持つエンドウマメは、乾燥してもなめらかなままで、甘みは少なく、しばしばスープや家畜の飼料として利用される。

③ 以下の説明の内容が正しいものには○、誤っているものに×をつけなさい。(20 点)

メンデルが発見した遺伝の法則に用いられた 7 つの形質に関与する遺伝子はすべて解明された ( ○ )

メンデルの時代には、遺伝子という概念はすでに存在していた ( × )

最初に遺伝子と関連付けられたメンデルの形質は種子の形だった ( ○ )

エンドウの遺伝子研究は、ゲノムサイズが大きく、注目度が高いために進んでいた ( × )

II. 受験者の卒業研究の要旨あるいは修士課程における研究計画のいずれかについて、20 語以上の単語を用いて英文にて示せ [40 点]

In my master's program, I aim to elucidate the behavioral traits of brown bears living on the urban outskirts of Sapporo City, Hokkaido—known as "urban bears"—by examining their potential reduced wariness toward humans. I plan to accomplish this by tracking the movements of individuals equipped with GPS collars.